

審 査 講 評

谷口審査委員長

グリーンスクール受賞校の先生方、皆様方おめでとうございます。先程井戸知事もおっしゃいましたように、環境教育は命の教育でもございます。よく21世紀は環境の時代と言われますけれども、何のための環境かと申しますと、命のための環境です。もう少し申し上げますと、健全な環境があつて初めて健康な命が保たれる、ということになるかと思ひます。そういう意味では21世紀は環境と命の時代であるという風に考えて良いかと思ひます。グリーンスクール審査委員会も5年になりますが、非常に盛んになってきております。初回の方から審査に携わらせて頂いております。そのころから比べても、さらに一層発展しているということでございます。

今回30校の推薦がありましたが、その中から10校をグリーンスクールとして選考しました。小学校・中学校順次色々と講評申し上げます。

(小学校では)

- ✚ ビオトープに生息するメダカや沼エビの観察を通して、自然環境への関心や、愛着を身に付けている「尼崎市立七松（ななつまつ）小学校」、
- ✚ 絶滅危惧種のゲンジ草をビオトープに移植し、発芽、繁殖させるなど、実体験を通して学習活動に取り組んでいる「伊丹市立瑞穂（みずほ）小学校」、
- ✚ 里山というスケールの大きいフィールドを保護者や地域の協力を得て、巧みに教材化し、食育や道徳と関連付けている「宝塚市立中山五月台（なかやまさつきだい）小学校」、
- ✚ ゲンジボタルの飼育、放流を通して命のつながりを学び、学習したことを海外の小学校とも交流を行っている「姫路市立安富北（やすとみきた）小学校」、
- ✚ スナメリの住む御崎の海をめざして、アマモを御崎の海へ移植、育成するなど、生物多様性を高める取組を行っている「赤穂市立御崎（みさき）小学校」、
- ✚ 豊かな自然に囲まれた校区の特性を生かし、学年ごとにカリキュラムを作成し、発達段階に応じた学習に取り組んでいる「朝来市立山口（やまぐち）小学校」、
- ✚ 児童が保護者や校区の方と里山に入り、五感を使って樹木、生き物を観察し、課題追求学習に意欲的に取り組んでいる「篠山市立雲部（くもべ）小学校」

の7校を選考しました。

中学校では、

- ✚ ゴミの投棄などによって景観が損なわれつつある五色浜に、美しい海岸を蘇らせようと、全校をあげて取り組んでいる「洲本市立五色（ごしき）中学校」

の1校を選考しました。

特別支援学校では、

- ✚ 点字本を再利用した紙粘土による作品作りや、剪定した樹木を利用した看板作りなどを通して、海外とも交流を行っている「県立視覚特別支援学校」、
 - ✚ 31年間継続している地域の美化作業や廃材利用等の活動を通して、自然を愛し、奉仕する精神を身に付けている「県立氷上（ひかみ）特別支援学校」、
- の2校を選考いたしました。

また、グリーンスクールの選考に漏れたものの、優秀な取組を進めており、今後の取組が期待できる学校をグリーンスクール奨励賞として、小学校1校、中学校1校、高等学校1校を選考しました。

- ✚ 地域の方々から、学校周辺の自然環境について学び、自分たちで里山の手入れを行い、五感を使って里山を感じている「三田市立松が丘（まつかがおか）小学校」、
- ✚ 「フィリピンに井戸を贈る」という目標を掲げ、アルミ缶のリサイクルに18年間継続して取り組み、12基の井戸を贈っている「西宮市立甲陵（こうりょう）中学校」、
- ✚ 六甲山のキノコの研究で、国内でも確認事例の少ない種の発見など、専門性の高い取り組みを行っている「県立御影（みかげ）高等学校」、の3校です。

また、本年度の選考に惜しくも漏れた学校につきましても、審査委員会の委員ともども、その活動に敬意を表するとともに今後の活動の充実に期待を寄せていることも、併せてご報告申し上げます。

先程、環境教育ということは命の教育ということを申し上げました。私は環境教育を3段階に分けております。まず教育そのものだということが第1段階で、心豊かな子ども達を育てることじゃないかと思えます。第2段階として、全ての学校にあったように自然の中で原体験をして、心豊かに生態系を学ぶ。第3段階で、心豊かな子ども達が育ったら初めて環境問題の行動に移る。心豊かな子どもたちは環境破壊・汚染を見ると胸が痛くなって、自ら行動する子ども達に育つのではないかというふうに思います。

今後、この13校の活動が、兵庫県のグリーンスクールとしてさらに発展すること、そして、他の学校において、今の取組がさらに充実すること、ひいては兵庫県の環境学習環境教育が推進されることを切に希望いたしまして審査講評といたします。